

まちのみんなで
“おかえりなさい”

～ 全国初の明石市更生支援等条例 ～

明石市長 泉 房穂

(弁護士・社会福祉士)



〈 本日、お伝えしたいこと 〉

更生支援(更生保護)は

- 1 特別ではなく、“あたりまえ”のこと
行政(自治体など)の**本来的な仕事**
- 2 孤立ではなく、“つながる”ことが大切
司法と**行政**と**福祉**と**地域**と**家族**の**連携**
- 3 関係者だけでなく、“みんなのため”になる
誰もが暮らしやすい**安心**のまちづくり

〈講演の流れ〉

- 一. はじめに 明石市の紹介、更生支援とのかかわり
- 二. 明石市の取り組み 支援に際してのポイント（目的や視点など）
三本柱（①つなぐ ②ささえる ③ひろげる）
具体的な支援内容（事例紹介など）
- 三. 更生支援・再犯防止等条例 制定の背景や必要性
条例のポイント（連携や地域共生など）
- 四. 被害者支援
- 五. やさしい社会を明石から
全国初の“あたりまえ”施策を全国発信
“おかえりなさい”といえるまちへ

〈 本日の資料 〉

1. レジюме まちのみんなで“おかえりなさい” ※当資料です

2. 明石市更生支援及び再犯防止等に関する条例

条例解説パンフレット 【参照】明石市WEB

https://www.city.akashi.lg.jp/fukushi/ts_kousei/h30/kouseishien_ordinance/kouseishien_ordinance/documents/pamphlet_ordinance_standard_edition.pdf



3. 明石市 市政ガイド 2021 【参照】明石市WEB

https://www.city.akashi.lg.jp/seisaku/kouhou_ka/shise/koho/oshirase/guide2021.html

4. 明石市広報紙〈 広報あかし 〉 【参照】明石市WEB

2018/6/15号

<https://www.city.akashi.lg.jp/shise/koho/kohoakashi/h30/0615.html>



一. はじめに

1. 明石市の紹介



時のまち

子午線上に建つ
明石市立天文科学館



海のみち

明石鯛
明石焼



歴史のみち

人口 約30万人

面積 約50km²



明石城はさくらの名所

世界最長の明石海峡大橋



開催決定!
第41回
全国豊かな
海づくり大会
in 明石

明石市内の関係施設

兵庫県 明石警察署



神戸地方検察庁
(明石支部)



神戸地方裁判所
(明石支部)



市内に刑務所など
刑事関係施設が
多く存在している

明石市社会福祉協議会

更生保護サポート
センター

神戸刑務所



2. 更生支援とのかかわり

(1) 弁護士として・高齢者や障害者などに対する

更生支援の必要性を痛感 町弁として活動

23 社 会

2009年(平成21年)7月2日 木曜日

(第3種郵便物認可)

新 聞 新 戸 申

明石で万引の元ホームレス

弁護を担当したのは、同市内で開業する泉房総弁護士(45)。裁判資料を手掛かりに、大阪にいる長男を捜し当てた。手紙を送るが、返事はない。重ねて手紙を送り、父の社会復帰に向けて協力を頼んだ。初公判の2週間後に返事が届いた。

長男は、父と再会すべきか、無視すべきか、ずいぶん迷ったという。父が家を出たのは小学生の時。今は結婚し、平穏な暮らしもある。手紙に複雑な心境をつづった。

「そんなみつももない状態では会えない。ちゃんと生活できるようにしてから会いたい」(安月給から10万円送る。被害者に弁償し、残りは生活費に充てて)。

接見室で、男性は何度も手紙を読み返した。そして言葉を絞り出した。「弁護士さん、やり直せないでしょうか」

一方、男性のきょうだいら親族は「面倒なことにかかわ

自暴自棄やめ、故郷で畑仕事

結局、男性は罰金刑の判決を受けた。

釈放の約1カ月後。泉弁護士に男性から電話があった。「九州の実家に戻って畑仕事して暮らしています。キャベツが収穫できたら送ります」

男性は今、農作業に汗を流して暮らしている。

◇

社会福祉士でもある泉弁護士は最近、ミニコミ紙の連載で、このいきさつを取り上げた。再犯を防ぐために周囲の支援が必要なることを伝えたかった。「罪を犯した人を排除し、孤立化させれば、再び罪を犯す結果につながる」と話している。

「息子に会う」「更生の支えに」

昨夏、明石市内の店で食料品を万引したとして60代の男が逮捕、起訴された。住所不定、無職。路上生活が長い。接見した国選弁護士に投げやりな態度で言い放った。「釈放されても、公園で寝転がるだけ」。しかし、意外な身の上も漏らした。「20年以上前に別れた息子がいる。死ぬ前に一度会いたく」

(平岡雅彰)



(2) 国会議員として

被害者支援や更生支援の分野における
司法と福祉の連携を訴え、精力的に活動



(3) 社会福祉士として

- ・2007年、社会福祉士の資格を取得
- ・日本社会福祉士会、リーガルソーシャルワーク委員会の立ち上げに携わる



2009年(平成21年)4月27日 月曜日 14版 社会 26

知的障害、高齢者の再犯防げ 出所後の自立後押し

■弁護士や福祉関係者、刑務所連携



支援者に囲まれ、再出発を誓う男性(中央)＝26日午前、明石市内

生活保護申請、住居を確保

二十七日午前八時半。た。知的障害のある男性(左)が同センターを後にし、入所時の所持金は百三十万円、一年八月月の服役を終えた今、手には引を重ねてきた。執行猶保二を待つていなかった。取得は十八歳までに知的障害があった証明が必要のため、小学校時代の恩師を頼り、申請にこぎつけた。

既に就労先も確保し、今後、生活保護の申請など幅広くサポートする。男性はじつかり働いて、残りの人生をまじめに生きていこうと話した。

○六年の法務省調査では、引受先のない満期釈放者七千二百人中、障害者や高齢者は約千人を占める。こうした支援は、厚生労働省が〇九年夏から各都道府県に設置する「地域生活定着支援センター(仮称)」の活動を先駆けたもので、関西では初のケースとみられる。

支援者の一人、明石市の知的障害者相談事業所「オアシス」の山下孝光所長(右)は「福祉サービスが受けられず、再犯を繰り返す知的障害者もいる。出所からの支援が欠かせない」と話す。

明石市の弁護士も福祉関係者と、半官半民の刑務所「福徳社会復帰促進センター」(加古川市)が共同で、受刑者の出所後の生活を支援する取り組みを始めた。受刑者の中でも高齢者や知的障害者は出所後の就労確保などが難しく、生活面から再び犯罪につながることを指摘されている。こうした人たちの社会復帰をいかに定着させるかは、犯罪防止の観点からも課題になっている。

(飯田 憲)

(4) 篤志面接委員として

播磨社会復帰促進センターの
初代篤志面接委員として活動

- 無料法律相談の実施
- 収容者の療育手帳取得に奮闘



官民共同 (PFI方式)
地域との共生 (構造改革特区)



二. 明石市の取り組み

1. やさしい社会を 目指して



① ホップ

まずは始める

- コーディネートモデル事業
 - ネットワーク会議
- 2016年7月～



② ステップ

条例化・制度化

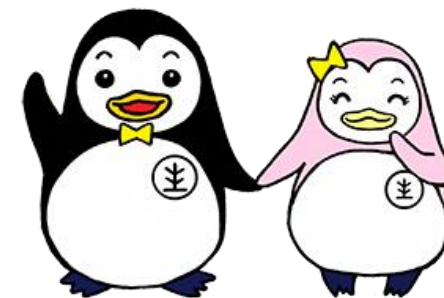
明石市更生支援及び
再犯防止等に関する条例
2019年4月施行



③ ジャンプ

あたりまえ化

やさしい社会へ

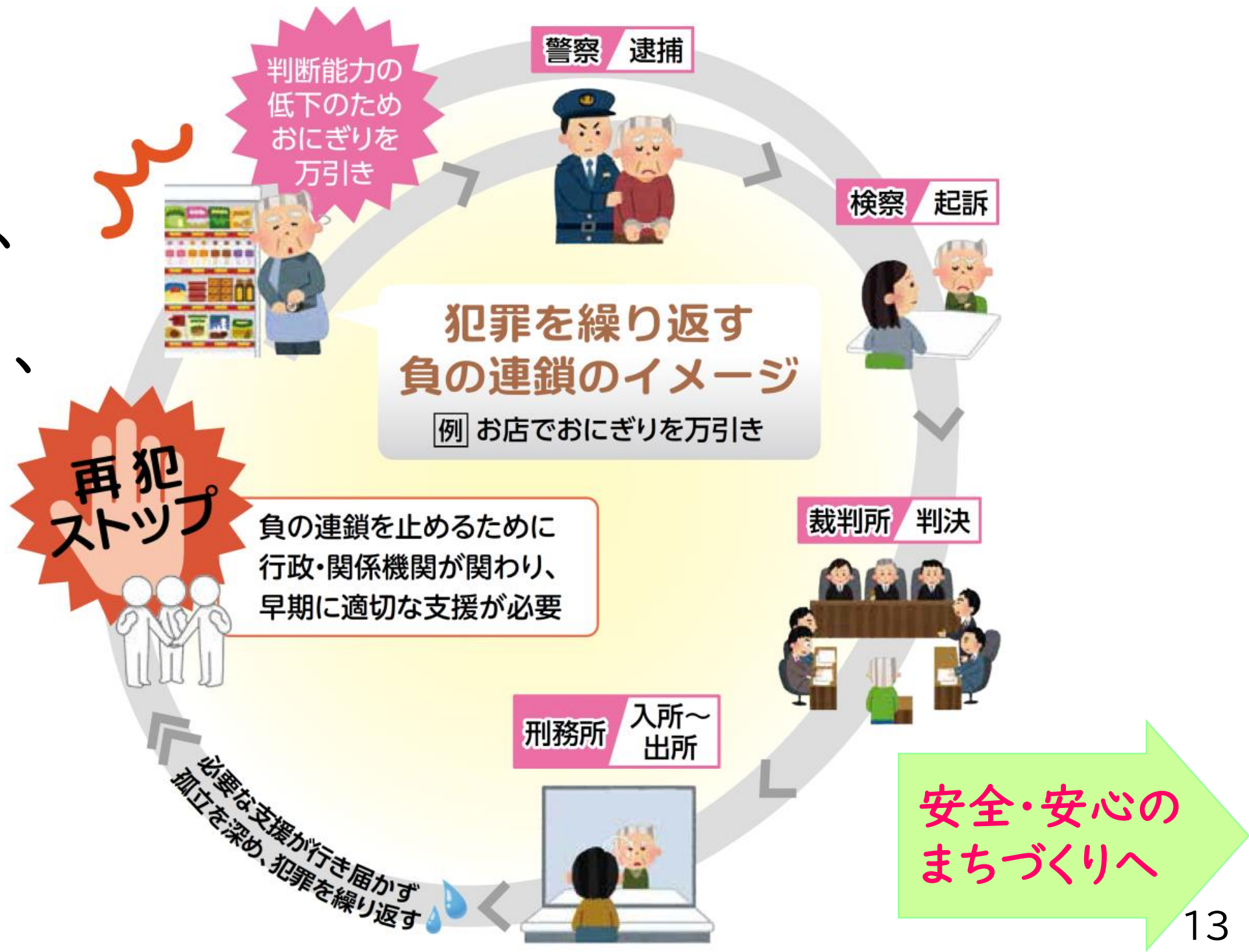


2. 明石市における支援に際しての7つのポイント

- (1) **目的** 本人のため、家族のため、まちのため
- (2) **対象** すべての人 かつ その人
(ユニバーサル) (個別性)
- (3) **主体** まちのみんな(関係機関を含む)
- (4) **時期** いつでも、ずっと
- (5) **内容** 一般的な行政サービス + 一定の配慮
- (6) **方法** 連携 と アウトリーチ と 関係者の理解
(つなぐ) (ささえる) (ひろげる)
- (7) **視点** 本人目線

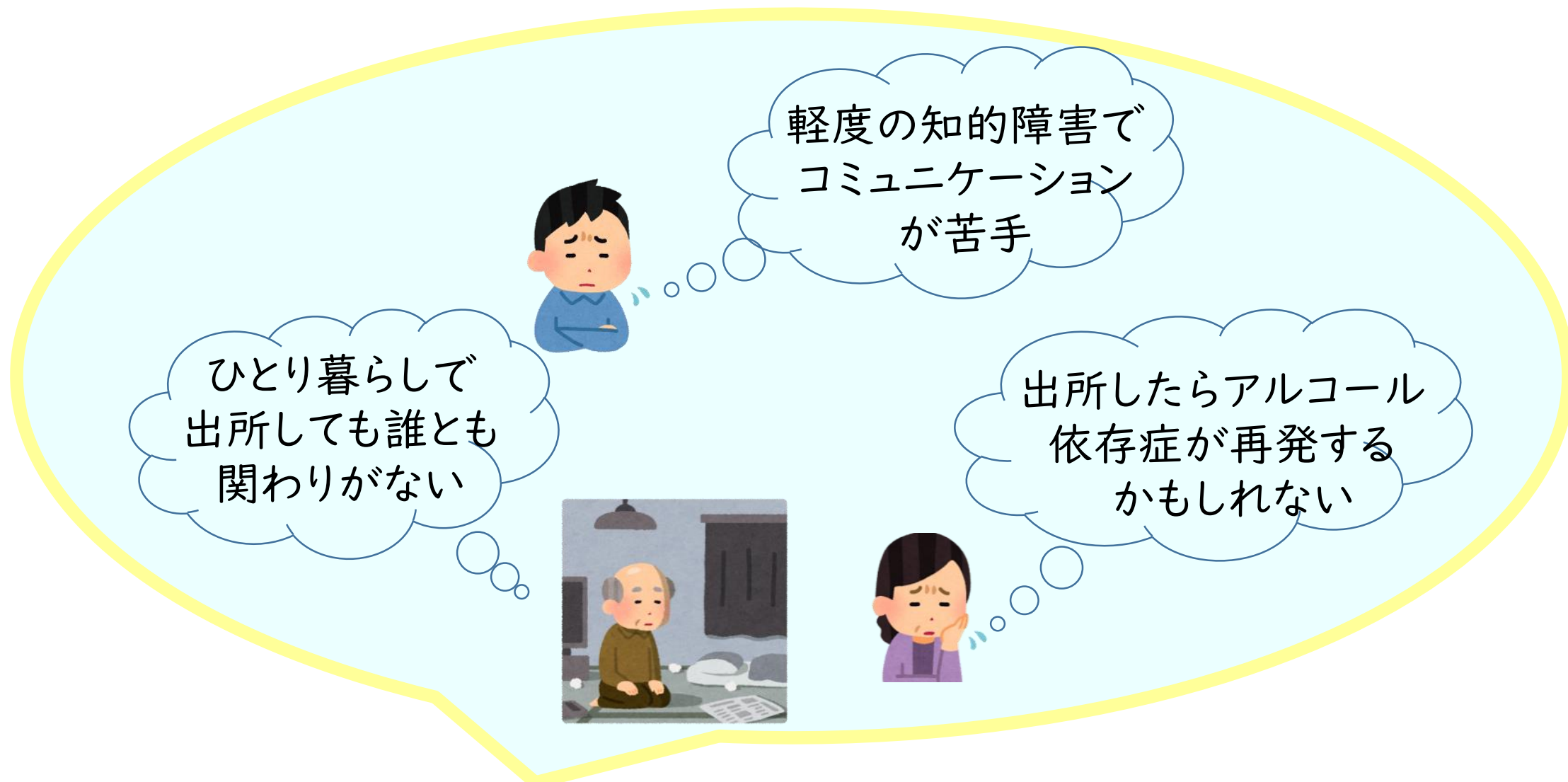
(1) 目的

本人のため、
家族のため、
まちのため



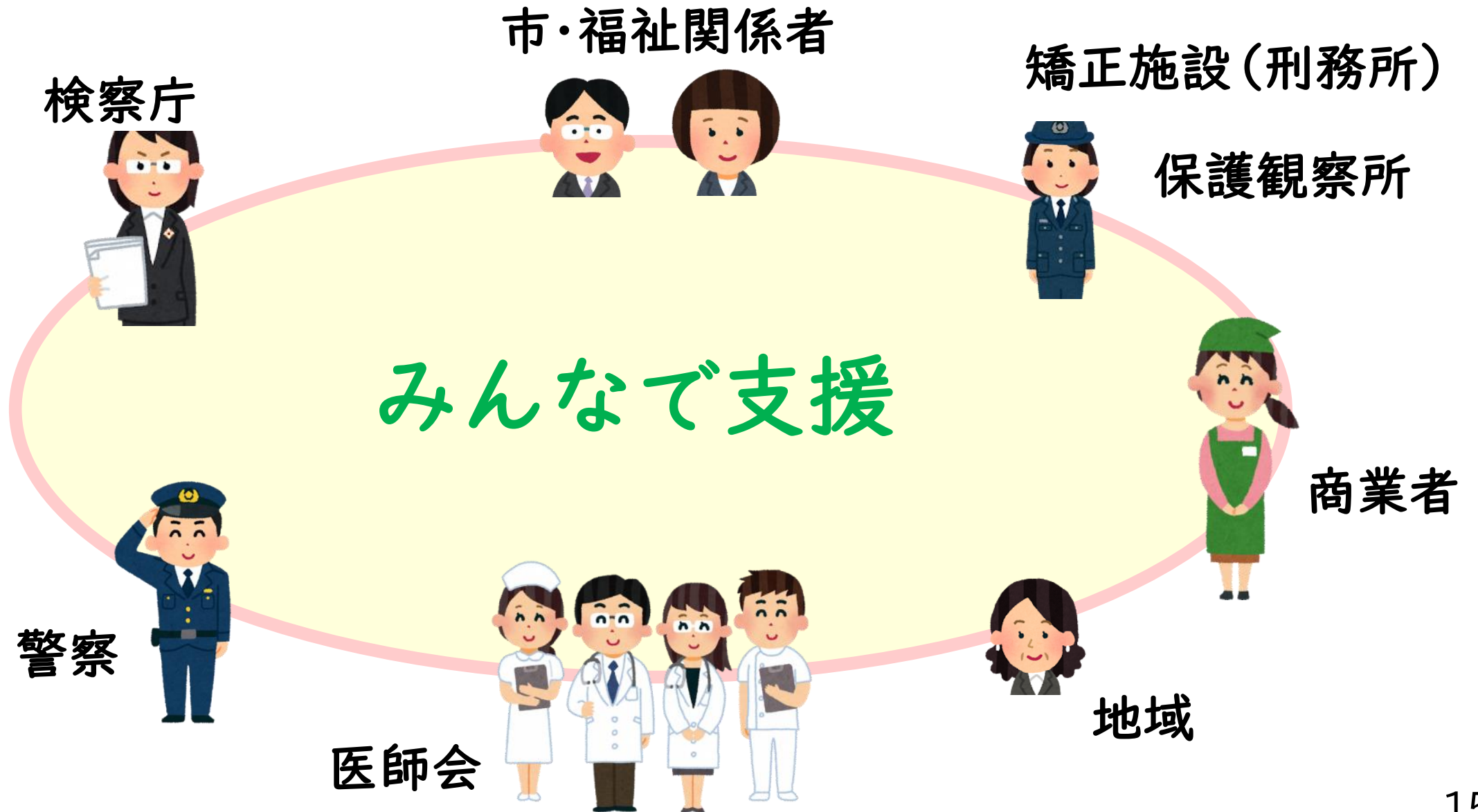
(2) 対象

すべての人 かつ その人
(ユニバーサル) (個別性)

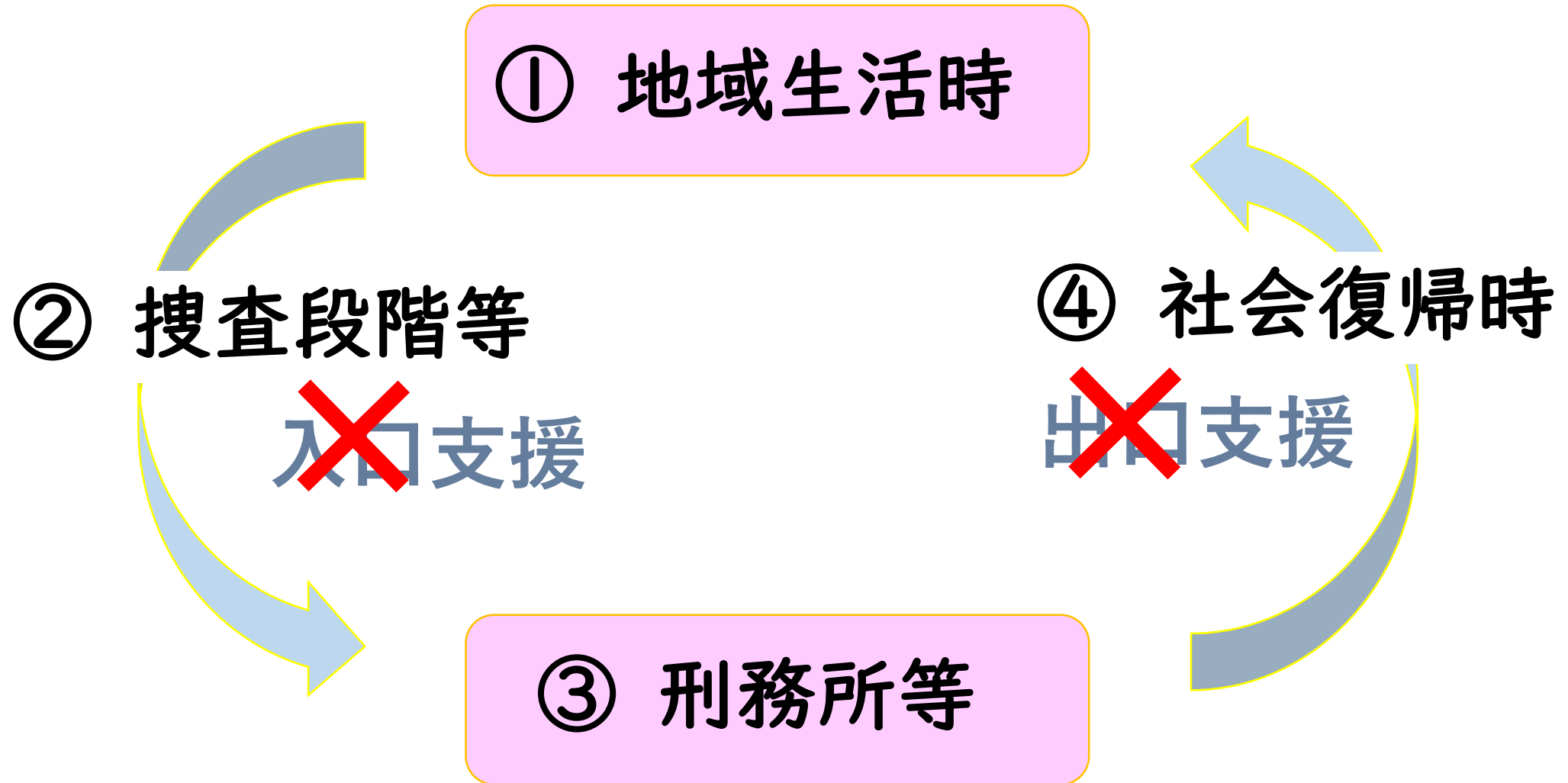


すべての人の、それぞれの事情に応じて支援

(3) 主体 まちのみんな（関係機関を含む）



(4) 時期 いつでも、ずっと



(5) 内容 一般的な行政サービス + 一定の配慮

既存の行政サービスを、事案に応じて提供

- ▶ 発達診断および障害者手帳の申請の支援
- ▶ 介護保険の要介護認定申請の支援
- ▶ 福祉／介護／医療サービス受給への支援
- ▶ 日中の居場所支援
- ▶ 就労支援
- ▶ 法定後見制度の活用（保佐など）
- ▶ 生活保護の同行申請
- ▶ 帰住先／定住先確保の同行申請 など



継続的支援のコーディネート

主に、以下の3つの側面からの支援を行い、
対象者の地域社会復帰をサポート

① 福祉的支援

障害福祉、介護サービス、生活保護等
福祉サービスにつなぐ

② 就労支援

関係機関や民間企業と連携し、
就労を支援

③ 地域的支援

保護司や民生児童委員をはじめとした
地域の関係者と連携した見守り等

(6) 方法



連携（つなぐ）

- ▶ 関係機関によるネットワーク構築



アウトリーチ（ささえる）

- ▶ 継続的支援のコーディネート



関係者の理解（ひろげる）

- ▶ 市民への啓発（講演会、パネル展示）

⇒ 取り組みの**三本柱**

(7) 視点 本人目線

“再犯防止”は他者目線

⇔ “更生支援”は本人目線

【 取り組みの理念 】

更生：やり直す

甦：生まれかわってやり直す



更生ペンギン
ホゴちゃん

3. 取り組みの三本柱 つなぐ、ささえる、ひろげる

(1) つなぐ
関係機関との連携
ネットワーク化

(2) ささえる
個別面談支援・手続支援、
コーディネート

(3) ひろげる
広報紙・フェア、イベント、
サポーター養成



〈市の推進体制〉

明石市

協同して対応

地域共生社会室

委託



社会福祉法人

明石市社会福祉協議会

Akashi City Council of Social Welfare

権利擁護支援課

市民相談室

高齢

高齢者総合支援室

地域総合支援センター

障害

生活支援室

障害福祉課

基幹相談支援センター

生活困窮

生活福祉課

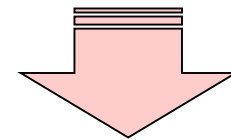
(1) つなぐ ネットワーク化

関係機関によるネットワークを構築

「明石市 更生支援ネットワーク会議」

機関同士の連携・情報共有が目的

第1回(2016.7) 26団体



拡大!

第4回(2018.6) 37団体

認知症高齢者 再犯抑止へ

万引などの罪を犯した明石市内の軽度知的障害者や認知症高齢者の再犯抑止策を進める「明石市更生支援ネットワーク会議」が1日、発足した。公的サービスが適切に受けられるように援助することで犯罪発生数減少を目指す。同日には、市の相談窓口を紹介したチラシを渡すモデル事業を始めた。（井原尚基）

明石市

市役所で同日あった初会合には、同市や検察、刑務所を含む23機関が参加した。

法務省などによると、高齢受刑者の1割以上に認知症の傾向があり、知的障害がある新規受刑者のうち約6割が再犯での入所という。

市は、生活保護制度の利用や障害者手帳取得という福祉サービスが、社会的孤立によって受けられないことが再犯要因の一つになっていると分析。各機関に呼び掛け、今回取り組むことにした。

チラシには、仕事や住居探しを含む総合相談窓口の電話番号を掲載。当初は、万引をした窃盗容疑で任意同行を求められた高齢者や知的障害者が帰宅する際、明石署が渡す。

県警生活安全企画課によると、相談窓口を記したチラシを警察署が配布する取り組みは珍しいという。市はモデル事業を継続しながら、刑務所から出た後も見据えた安定的な支援体制を2018年度ごろ整える。

更生ネット発足 公的支援、チラシで利用促す



第2回 更生支援ネットワーク連絡会議

(2017.4.14)

ネットワーク連絡会議 構成団体

【司法・矯正機関等】 10団体

神戸地方裁判所明石支部 (オブザーバー) / 神戸地方検察庁明石支部
兵庫県明石警察署 / 神戸刑務所 / 加古川刑務所
播磨社会復帰促進センター / 神戸保護観察所 / 神戸少年鑑別所
更生保護法人神戸学而園 / 法テラス兵庫

【専門職団体】 4団体

県弁護士会 / 県社会福祉士会 / 県精神保健福祉士協会 / 県臨床心理士会

【関係団体・支援機関】 4団体

手をつなぐ育成会 / 明石ともしび会
明石市基幹相談支援センター / 明石市地域総合支援センター

【県機関】 2団体

地域生活定着支援センター / 障害福祉課

【社会を明るくする運動明石地区推進委員会構成団体】

7団体

保護司会 / 更生保護女性会 / 民生児童委員協議会
連合まちづくり協議会 / 連合PTA / 明石市社会福祉協議会

【医療機関】 2団体

明石市医師会 / 明石市立市民病院

【就労支援機関】 4団体

明石公共職業安定所 / 障害者就労・生活支援センターあくど
明石商工会議所 / 商店街連合会

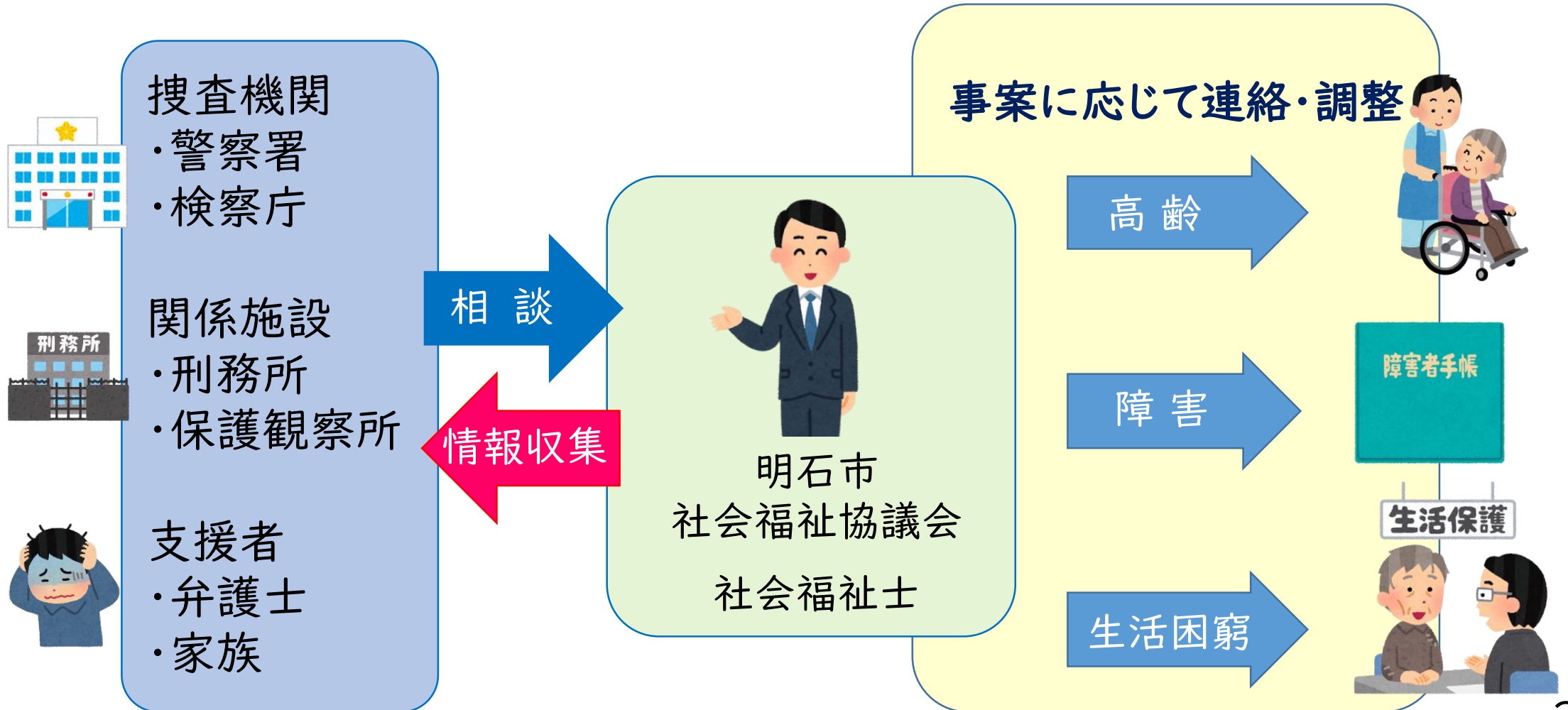
【民間支援団体】 4団体

チェンジングライフ / 神戸の冬を支える会 / チーム風
神戸ダルクヴィレッジ

計37団体

(2) ささえる 個別面談支援・手続支援

社会福祉士職員が対象者と面談し、支援に必要な
アセスメント・コーディネートを実施



面談の結果、一人ひとりに必要とされる支援を判断し、申請手続を支援

例えば...

介護サービスが必要だが、手続きができていない

高齢者

高齢者総合支援室
地域総合支援センター



障害者手帳の申請ができていない

障害者

障害福祉課
基幹相談支援センター

障害者手帳

仕事ができず
お金がない

生活困窮者

生活福祉課

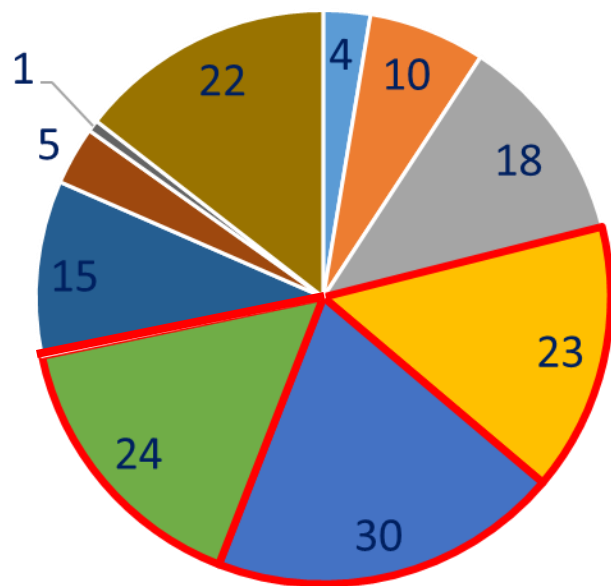
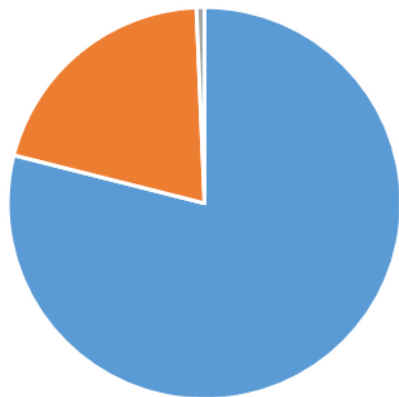
生活保護



～ 更生支援コーディネート事業 実績 ～

● 相談対応件数 152 人

男性が8割弱



- 10代
- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代
- 70代
- 80代
- 90代以上
- 不明

40代、50代、60代で
全体の5割超

また、50代男性、
60代男性が
全体の3割超を占める

● 支援実施件数 110 人



● 受給等に至った件数 81 人

支援実施年度 2015 (H27) 年度～
2020 (R2) 年度

● 支援内容

支援内容	支援件数 (重複あり)
生活保護	25件
手帳取得	11件
障害福祉サービス	26件
介護保険	12件
老人福祉	5件
就労支援	14件
更生支援計画	8件
日常生活自立支援	6件
後見支援	5件
その他	50件



本人からの声



Aさん

一人では
今のような
就労支援施設に
通うことはできな
かった。



● 再犯率 全国(2019) 48.8% 明石市 | **4.4%** ※追跡できた90人中13人

事例Ⅰ（捜査段階からの支援ケース）

1 支援のきっかけ

- ▶ 検察官が、障害を持っている可能性のある（障害者手帳は所持していない）被疑者（40代・男性）がいると、市役所へ相談

2 支援の内容

① 警察署での面談

職員が警察署で面会したところ、自閉傾向がうかがわれ、支援を決定

② 心理検査

保釈後に心理検査を実施したところ、軽知的障害があり、福祉的支援を行うことに

③ 施設見学

面談での様子等をふまえ、Aさんに合いそうな
就労支援施設を紹介し、職員も同行して見学

3 支援の結果

- ▶ 執行猶予の判決後に手帳の発行を受け、就労支援施設にまじめに通い、訓練に励んでいる



事例Ⅱ（出所前からの支援ケース）

1 支援のきっかけ

- ▶ 神戸刑務所が、出所後に帰る家がなく、高齢者施設への入所を希望する受刑者（60代・男性）がいると、市役所へ相談

2 支援の内容

① 市職員による面談

職員が刑務所で面談したところ、「アルコールへの依存があり一人暮らしは心配。見守りがある施設で生活したい。」と希望

- ▶ 高齢者施設の職員に面談を依頼



② 高齢者施設の職員による面談

高齢者施設の職員が刑務所に足を運んで面談し、
身体の様子や今までのアルコールの飲み方について
聞き取り、施設への入所が決定

③ 出所後のフォローアップ

出所日に出迎えを行い、身の回りのものを揃え、
施設へ入居。1か月後にも、市職員が施設に行って、
トラブルがないか聞き取り

3 支援の結果

- ▶ 施設の行事を楽しんだり、リハビリを兼ねて
お茶出しをするなど落ち着いた生活ができている

② 「あかし更生支援フェア」の開催

2019年7月27日開催

講演：村木 厚子 氏 (津田塾大学客員教授)



2017年7月1日開催

講演：江川 紹子 氏 (ジャーナリスト)



もっとこういう取り組みを
広めて行ってほしいし、
頑張ってもらいたい。

〈市民の声〉



〈市民の声〉

明石はリーディングシティ!
これからの取り組みにも
期待しています

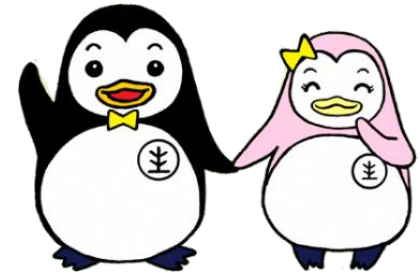


③ 「矯正展」の開催

“あかし更生支援フェア”において、
“えきまえ矯正展”を同時開催

- ・ 市役所ロビーでも開催

更生ペンギン



ホゴちゃん サラちゃん



市民に定着



多くの市民でにぎわう

④ 「あかし更生支援サポーター講座」の開催

～いつまでも、みんなで、支え合う地域に～

【目的】

「生活のしづらさ（高齢・障害・貧困等）」により
罪を犯してしまう人がいる現状と、市の取り組みを伝え、
地域共生の取り組みを拡大する。

【開催日】 2020年2月25日（火）、11月15日（日）

【定員】 各回 20名

【対象】 どなたでも申し込み可

【内容】 ・更生支援に関する講座
・保護司との対談形式の講座



三. 更生支援・再犯防止等条例

▶ 時代背景

- ・国の**再犯防止推進法**の成立（2016.12）
- ・**再犯防止推進計画**の閣議決定（2017.12）

▶ 行政の役割

- ・更生支援の取り組みは**基礎自治体の当然の責務**

▶ 条例の必要性

- ・二元代表制の一翼を担う市議会の承認を得て制定
⇒ **安定的・継続的な予算確保・施策推進**が可能に

明石市の条例 4つのポイント

① 条例名

明石市 **更生支援** 及び **再犯防止** 等に関する条例

② 目的 (第1条)

共生 のまちづくり推進と **安全安心** 社会の実現

③ 責務・役割・連携協力 (第4~7条)

市の責務、関係機関・市民の役割、**連携協力**

④ 地域共生 (第14~17条)

地域社会での **配慮**、地域活動への **参加促進**

① 条例名

明石市 **更生支援** 及び **再犯防止** 等に関する条例

2019年4月施行 (全国初)

更生支援

再犯防止

福祉的	司法・矯正的
本人支援	社会防衛
寄り添う	繰り返させない
下から	上から

共生

安全

② 目的 (第1条)

(前略)

罪に問われた者等の円滑な社会復帰を促進して

共生のまちづくりを推進し、また、

再犯の防止等の推進に関する法律が定める

地方公共団体の責務の趣旨を踏まえ、

市民が犯罪による被害を受けることなく、

すべての市民が

安全で安心して暮らせる社会の実現に

寄与することを目的とする。

③ 責務・役割・連携協力 (第4～7条)

(市の責務)

第4条 市は、個々に抱える事情等に応じて
必要と認められる **支援等を総合的に行う**

(関係機関等の役割)

第5条 更生支援に関する施策に協力するよう努める

(市民等の役割)

第6条 更生支援に関する施策に協力するよう努める

(関係機関等の中の緊密な連携協力の確保等)

第7条 市は、**連携協力**の確保等を行う機会を
設けるものとする

④ 地域共生 (第14~17条)

(地域社会における共生の配慮)

第14条 市は、**孤立することなく平穏な日常生活が継続**
できるよう、日頃から配慮するよう努めるものとする

(地域における見守り等)

第15条 生活状態等の事情を考慮し、日常生活等に関する
相談に応じるものとする

(地域活動への参加促進)

第16条 **地域社会の公益的活動等に参加**できるよう
配慮するものとする

(親族等に対する情報提供等)

第17条 当該親族等の生活状況等にも十分配慮するものとする

〈参考〉条例検討会

条例検討会の構成員

矯正	警察	1名
	検察	1名
	刑務所	1名
司法	保護観察所	1名
	保護司	1名
	地域	定着支援センター
福祉	NPO法人	1名
	地域代表（地域自治組織）	1名
	福祉施設	1名
有識者	弁護士	1名
	学識経験者	2名

《 検討過程が重要 》

委員計 12名

関係者ととともに協議し、理解を深めることで、強固な連携体制を構築

それぞれの立場から 熱い議論



前千葉県知事 堂本 暁子さん
(オブザーバー)

検討会で展開された更生支援、そして再犯防止推進法の本質に迫る真剣な議論に感動しました。

その結果を踏まえて作られた条例は、全国のモデルになると確信しています。

❖ 制定スケジュール

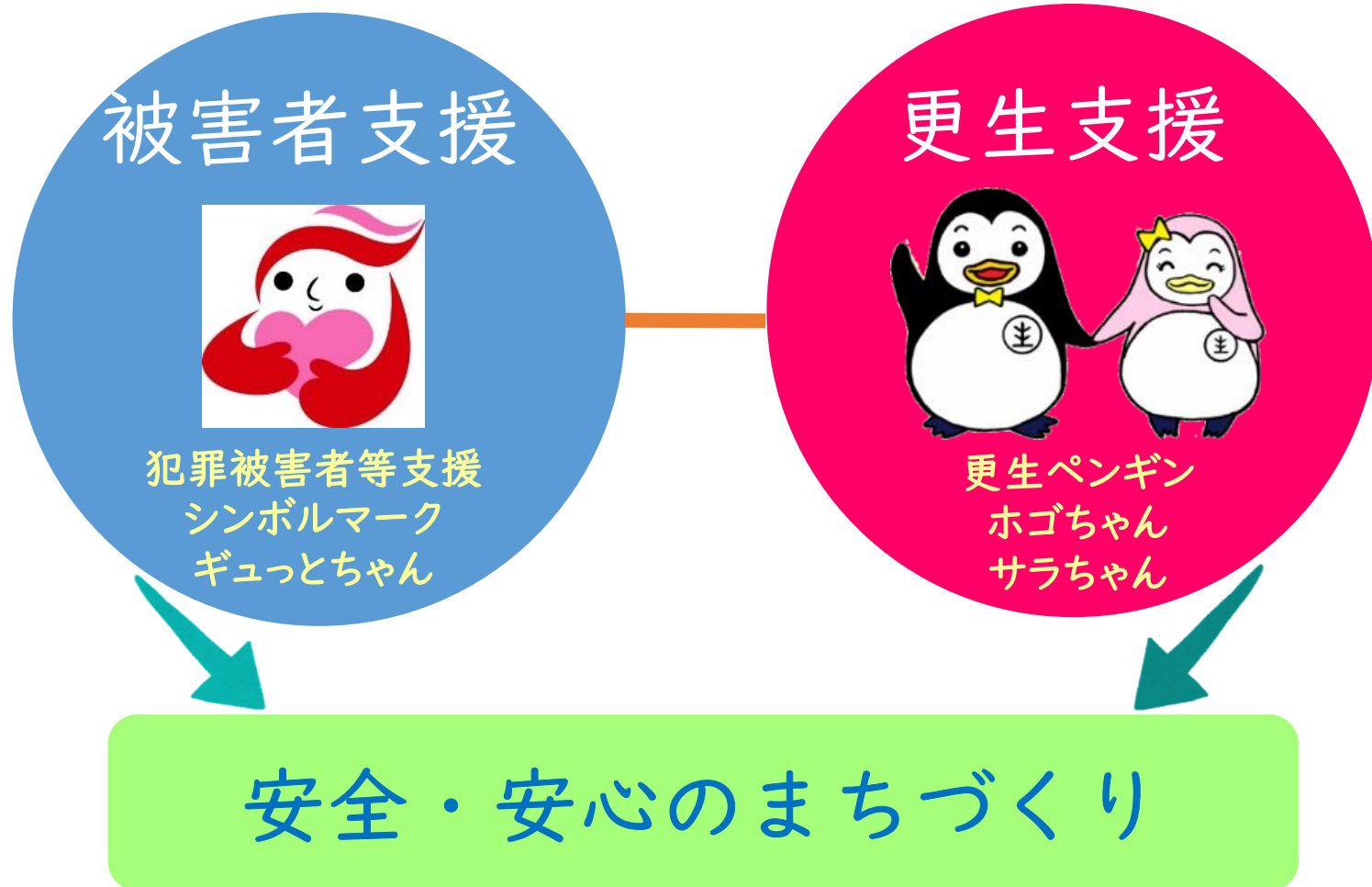
- | | |
|----------|--------------------|
| 2018年 1月 | 第1回 条例検討会 |
| 3月 | 第2回 条例検討会 |
| 5月 | 第3回 条例検討会 |
| 7月 | パブリックコメント実施 |
| 10月 | 第4回 条例検討会 |
| 12月 | 市議会に条例提案 ⇒ 原案どおり可決 |
| 2019年 4月 | 条例施行 |



四. 被害者支援

誰一人置き去りにせず 支え合うまちづくり

被害者支援と更生支援は 車の両輪



明石市の犯罪被害者等支援



犯罪被害者等支援
シンボルマーク
ギュっとちゃん

- ▶ 全国初の立替支援金制度を導入
- ▶ 当事者の声を聴き、条例を3回改正し、支援を拡充

「明石市犯罪被害者等の支援に関する条例」



- ▷ 総合的支援（相談／生活／経済的）
- ▷ 犯罪被害者への賠償金立替支援金制度の創設（上限300万円）
- ▷ 二次被害防止を明記
- ▷ 再提訴支援
- ▷ 真相究明支援

あなたに寄り添い幅広い支援をします！



明日被害に遭うかもしれない

「すべての市民」のためのセーフティネット施策

犯罪被害者支援条例改正案を可決



可決した条例改正案について感想を述べる被害者団体のメンバー—明石市役所で

損害金を立て替え
明石市、自治体で全国初

した全国犯罪被害者の会（あすの会）代表幹事代行、林良平さん（60）は「こうした条例が全国の標準になることを強く望む」と期待した。同会副代表幹事で、神戸連続児童殺傷事件で次男を亡くした土師守さん（57）も「立て替え金以外でも着実に進んだ条例」と評価した。【駒崎秀樹】

明石市議会は20日、犯罪被害者やその遺族を支援する条例の改正案を、賛成多数で可決した。加害者が支払うべき損害賠償金を支援金として立て替え払いできることなどを盛り込んでおり、来年4月1日に施行する。市によると、自治体で立て替え金制度は全国で初という。

被害者らに30万円まで支給できる現行の条例を改正した。故意の犯罪で被害者が死亡したり重度の障害を負った場合、訴訟などで確定した賠償金のうち上限300万円までを市が立て替え払いできる。立て替え金は市が加害者に請求。また、介護や一時保育などの費用も補助する。条例改正では、被害者支援団体など意見交換を続けてきた。可決後に市役所で会員



2017/11/30

犯罪被害者支援条例

殺人などの重大事件で加害者への損害賠償請求権が時効で失われるのを防ぐため、再被害費用の補助などを追加した明石市の「犯罪被害者支援条例」改正案が20日、市議会で可決された。改正案により関わった全国犯罪被害者の会（あすの会）メンバー4人は市役所で記者会見し、「明石からの条例が全国に広まってほしい」と訴えた。【浜本年弘也】

「明石から全国へ」

改正案可決 土師守さんら期待

4人は有識者懇話会交換 亡くした福岡県太宰府市の古賀敏明さん（60）の立場で発言してきた。大阪府で2001年に起きた傷害致死事件で長男（当時26歳）を

改正案の趣旨理念には賛同し、被害者の兄弟姉妹や家族への支援も加えた。あすの会副代表幹事で、1997年の神戸・小学生連続殺傷事件で次男（当時11歳）を亡くした土師守さん（但し「兄弟姉妹への配慮も加わり、よかった。人になやましい気持ち」）が他の自治体へも広がってほしい」と期待した。稲美町で前年に起きた少年による集団暴行

条例改正案の可決を受け記者会見に臨む（左から）高松由美子さん、土師守さん、泉房穂・明石市長、古賀敏明さん、菅我部とし子さん—明石市庁舎1の明石市役所で



〈参考〉 ～ 明石市犯罪被害者等支援条例の**拡充** ～

2011年4月 条例施行	<ul style="list-style-type: none">・総合相談支援窓口を設置・経済的支援（支援金、貸付金）・日常生活支援（家賃補助、家事補助）
2014年4月 改正	<ul style="list-style-type: none">・総合相談支援の充実（相談料、補助範囲など）・立替支援金制度の創設（上限300万円）・二次被害防止の明記（市の責務）
2018年4月 改正	<ul style="list-style-type: none">・当事者の声を受けた新たな支援（対象拡大）・既存支援の充実（要件、補助の見直し）・国外犯罪被害者等への支援
2020年4月 改正	<ul style="list-style-type: none">・特例給付金制度の創設・財産開示、情報取得手続等の支援・既存支援の更なる拡充（安全確保）

2020年4月 新たに **あかし被害者基金条例** を**施行**

五. “やさしい社会”を明石から

やさしい社会とは

お互いに 助けあい 支えあう

あたりまえの社会

やさしいまち は 強いまち



All for All

明石モデルの全国発信

1 こどもを核としたまちづくり (未来)

- ・ 経済的負担の軽減
- ・ 環境の整備・充実

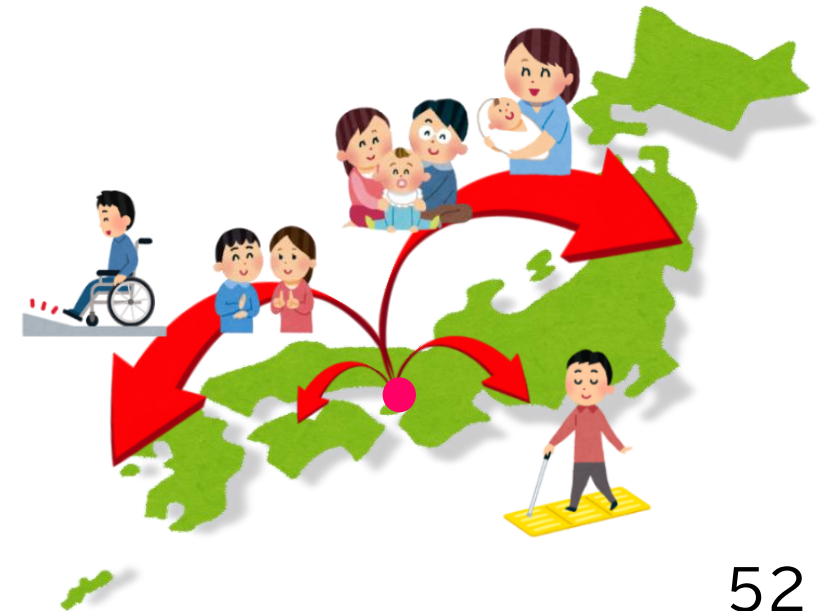
先駆性

2 セーフティネットの充実 (安心)

誰一人置き去りにしない、みんなで支え合うまちづくり

普遍性

明石市でできることは
ほかの自治体でもできる
持続可能なまちづくり



こどもを核としたまちづくり (未来)

明石市独自の5つの無料化

1 医療費

高校生(18才)まで

2 給食費

中学生

今年7月から
さらに拡充

3 保育料

第2子以降の全員

4 遊び場

親子とも

5 おむつ

満1歳まで(宅配も)

すべて
所得制限
なし

すべて
自己負担
なし

こどもの未来は 社会の未来

虐待防止・社会的養育の充実

児童相談所の新設

- ・全国で9年ぶり
- ・国基準の2倍の職員を配置

あかし里親100%プロジェクト

全国初

見守りおむつ宅配便

- ・アウトリーチ支援

早期の気づきと支援

- ・妊娠期から子どもを支援

妊婦全数面接

- ・子どもの健康を100%確認

乳幼児全数面接

- ・全28小学校区に開設

あかし版こども食堂

学びを応援

中学校給食の無償化

- ・食育、地産地消
- ・アレルギー対応なども

30人学級の導入

- ・まずは小学校1年生から

本のまちの推進

- ・駅前に図書館新設
- ・ブックスタート
- &ブックセカンド(県内初)

子育てを応援

- ・所得制限なし

高校生までの医療費無料化

- ・所得制限なし
- ・中核市規模では全国初

第2子以降の保育料無料化

大型遊具を備えた

「あかしこども広場」

- ・入場料無料の駅前施設

寄り添う支援

離婚前後の養育支援

全国初

児童扶養手当の実質毎月支給

全国初

無戸籍者支援

全国初

2 セーフティネットの充実 (安心)

全国初の“あたりまえ”の施策を順次、具体化

コロナ

- 独自の緊急支援策（個人商店に家賃100万円）
（前期分学費100万円）

全国初

高齢者

- 認知症 診断費用 無料化
- 在宅介護 支援金支給

全国初

全国初



障害者

- 手話言語・障害者コミュニケーション条例
- 合理的配慮への公的助成

全国初

全国初



LGBTQ+

・パートナーシップ・ファミリーシップ制度

全国初

こども

・養育費立替と面会交流支援

全国初

・こども食堂を全小学校区に開設

全国初

・児童扶養手当の毎月支給

全国初

・児童相談所・通学面会支援課の創設

全国初



無戸籍

・無戸籍24時間相談ダイヤル

全国初



支援が必要なときに必要な支援を

...その結果

まちの好循環が拡大

出生率
1.70



人口

9年

連続増



+13,000人

人口



来街者

7割

増



にぎわい



商業地 地価

7年

連続上昇



財源

+30億円

市税収入

7年

連続増



安心



91.2%

の市民が
住みやすい



子育て支援

5つの無料化など

施策





全国2位

市民満足度

も大きく上昇!



全国戻りたい街
ランキング 2021 **第1位**



1位	明石市(兵庫県)
2位	福岡市(福岡県)
3位	三豊市(香川県)
4位	太宰府市(福岡県)
5位	松本市(長野県)
6位	札幌市(北海道)

91.2%
住みやすい



年々
上昇中

住民の満足度も **UP**

住んでいる地域が
住みやすいと回答した人の割合
※まちづくり市民意識調査から(2019年実施)

こんなところが
評価されています

1位 **子育て環境の充実**

2位 **本のまちの推進**

3位 **良好な
都市環境の整備**

住みたい自治体
兵庫県で**第3位**に

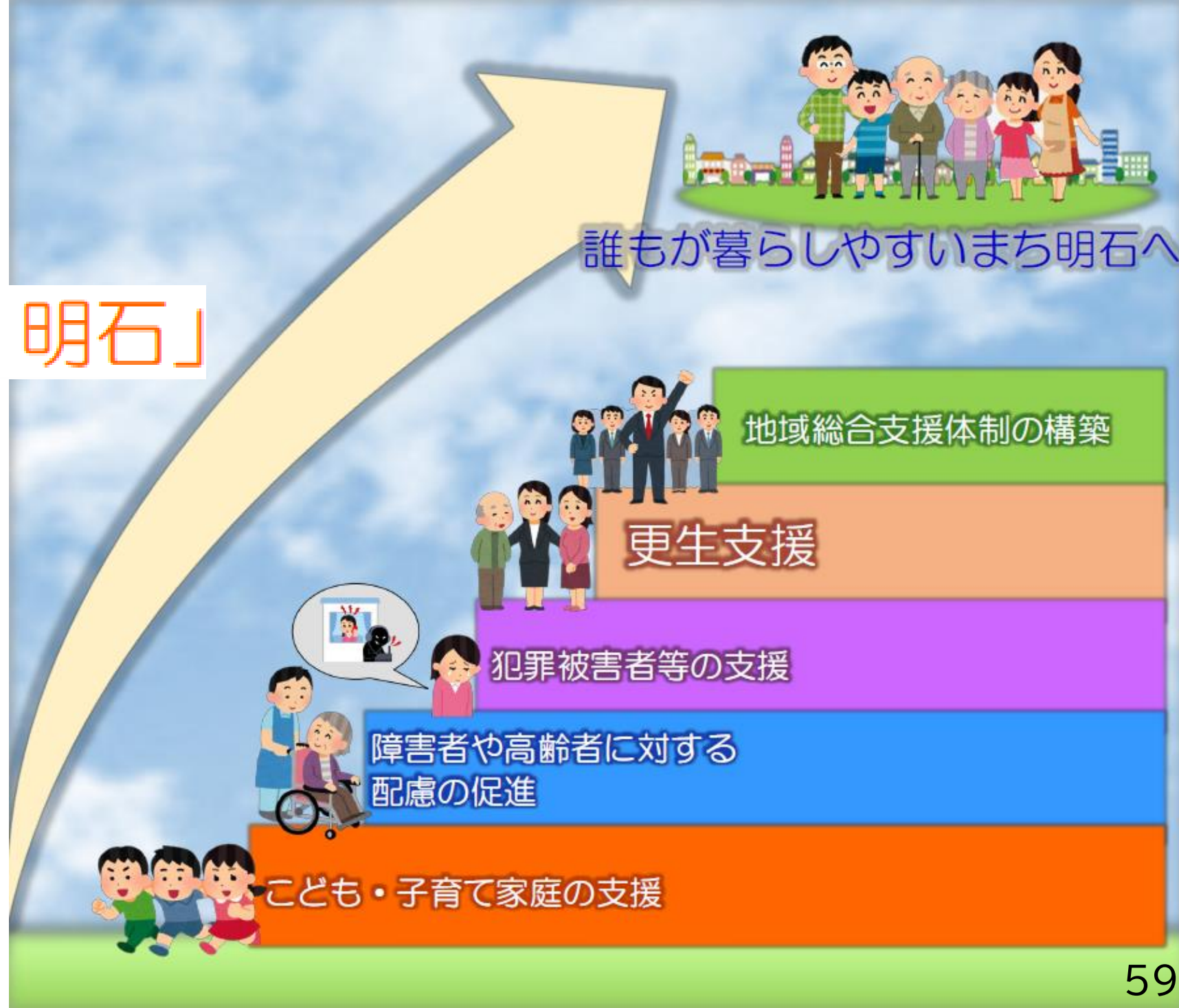


1位	西宮市
2位	神戸市中央区
3位	明石市
4位	芦屋市

更生支援は

「やさしいまち・明石」

の取組の一環



“おかえりなさい！”と いえるまち 明石



～プロフィール～ 泉 房穂 いずみ ふさほ

- ▶ 1963年 明石生まれ
漁師の長男として誕生



障害のある家族がいたこともあり
幼いころから福祉に目覚める

東大在学中は
駒場寮の寮長



- ▶ 元 NHKディレクター



民放移籍後
「朝まで生テレビ」なども担当



その後 石井こうき衆議院議員の
秘書となる

石井氏の勧めもあり
世のため、人のため弁護士に



- 2003年～2005年 衆議院議員
超党派での議員立法に奔走



- その後 明石で庶民派弁護士として活動
社会福祉士の資格も取得



- 2011年 明石市長選挙
69票差で初当選



得票率7割で再選 現在3期目



手話検定2級、柔道3段、明石タコ検定初代達人、ベストファーザー賞in関西受賞